

大谷スマートIC(仮称)

平成33年春供用開始目指す

上河内に続き 市内2箇所目

宇都宮市から(仮称)大谷スマートインターチェンジの概要について市議会に報告があり、その中で、平成33年3



(仮称)大谷スマートIC接続イメージ図

スマートインターチェンジ 高速度道路の本線上またはサービスエリア、パーキングエリアなどに設置されているETC専用のインターチェンジ。現在、栃木県内には佐野SA、上河内SA、那須高原SA(いずれも東北自動車道)の3箇所を設置されている。

月の供用開始を目指すとの考えが示されました。

概要によると、設置位置は東北自動車道宇都宮IC(鹿沼ICの主要地方道宇都宮今市線(大谷街道)交差部付近)接続形式は高速度道路本線から一般道へ接続される高速度道路本線直結型・上下線分離方式で、東北自動車道の上り線が市道2457号線(中丸野沢線)、下り線が主要地方道宇都宮今市線(大谷街道)へ接続される計画です。利用交通量は、供用時に1日当たり約5千台を見込んでいます。市では、平成18年度から(仮称)大谷スマートIC設置に向けた調査・検討を始め、23年度から国土交通省、東日本高速道路株式会社、栃木県、栃木県警との勉強会を開催。設置位置等について調査・検討・調整を進めてきました。地元説明会(事業説明会)、現地測量、道路予備設計(スマートICのルート、敷地幅の確定、主要構造物等の検討)を進め、平成33年3月の供用

開始を目指していくとしています。

現在、県内のスマートIC設置候補地としては大谷のほか東北自動車道の矢板北、都賀西方、北関東自動車道の壬生SAの4箇所が上がっています。

(仮称)大谷スマートICが設置されれば、上河内SAに次いでスマートICとしては宇都宮市内2箇所目。県都宇都宮市の中心市街地に最も至近のICとして多くの利用者が見込まれています。

大谷スマートICは、東北自動車道の宇都宮IC、北関東自動車道の宇都宮上三川ICなどと合わせ、市の活性化につながるものとして期待され、わが会派としても、地域の皆様の要望等も踏まえながら実現に向け取り組んでいきたいと考えています。



視線は解体されているマグロから切り身へ = 市中央卸売市場で行われた人気のマグロ解体ショー

中央卸売市場の活性化を

第4回定例会一般質問で、わが会派の馬上剛議員が宇都宮市中央卸売市場の活性化を取り上げ、市場の賑わいを取り戻すための重点施策の推進や民間活力を利用した食の拠点化を訴えました。市中央卸売市場は、野菜や果実、生鮮水産物とその加工品などを扱う市場として、築瀬町に昭和50年にオープン。市では、平成24年に、卸売市場を取り巻く環境の変化等に対応していくため、市場の一般開放や食育イベントによる地場産品の強化、民間活力導入の検討などを盛り込んだ「活性化ビジョン(平成33年目標)」を策定し、事業懇談会、毎月第2土曜日

の一般開放「うんめー朝市」などいろいろな事業に取り組んでいます。朝市は毎回多くの市民が来場し、賑わいを見せています。こうした取組によって、青果部の取扱金額が平成25年7月から5カ月連続で前年同時期を上回るなど、徐々に成果も表れてきています。市では、更に活性化を図るため、施設整備や用地の有効活用についての調査、一般消費者に開かれた市場を目指す「関連棟の常時開放」に向けた新規店舗募集などの準備を進めています。わが会派では、市民に開かれた活気あふれる中央卸売市場の実現をめざし、引き続き取り組んでまいります。